

第 21 回
板橋区
医師会医学学会

プログラム・演題抄録集

第 21 回医学会巻頭言

板橋区医師会医学会も昨年第 20 回目を終え、第 21 回目のテーマを委員の間で検討してきました。開かれた医師会の名の下に多職種間相互の情報交換の場を提供し、医療介護総合確保推進法に係る医師会活動を更に推進していく方針を確認しております。今年も、1 日目に 88 題の一般演題と教育講演を企画しています。一昨年より企画した公益社団法人板橋区医師会若手医師奨励賞受賞式も開催いたします。

要望演題は昨年と連続性を持たせ「癌の予防・早期発見・治療・リハビリ・終末期」といたしました。この演題の目的は、健康・検診・治療と「人生の最期を穏やかに過ごす時期」を啓発しなければならない団体である地区医師会としての役割を果たすこととあります。

さて、昨年より医療事故調査制度が開始されたことは、皆様もご承知のことと存じます。そこで、今年教育講演は、今までにもご講演いただいている東京都監察医務院院長 福永龍繁先生に「診療関連死と監察医制度」といたしました。ぜひ、多くの方のご参加をお待ちしております。

2 日目は恒例の区民公開講座ですが、近年多くの区民の方々のご参集があり、それを見込んで板橋区立文化会館大ホールに会場設定し、対応させていただきました。認知症をテーマに、午前中は映画「ペコロスの母に会いに行く」を上映いたします。実話をもとに制作された映画です。夫の死後に認知症を患った母とその介護をする息子を描いた笑いと愛をとどける作品となっております。

午後のシンポジウムは「認知症を地域が支える。みんなで支える。」として午前映画と繋がるテーマとなっております。①基調講演「認知症とともに生きる社会に向けて」東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 栗田圭一先生にご講演いただき、②対談講演「認知症とともに、よりよく生きる」を初めての試みとして開催します。認知症とともに歩む本人の会代表 佐藤雅彦氏と NPO 法人認知症当事者の会 水谷佳子氏に壇上で対談していただきます。③活動紹介では、「地域包括支援センター：住み慣れた地域での生活を支援」高島平地域包括支援センター所長 田畑文子氏、「かかりつけ医としての支援：もの忘れ相談医、認知症初期集中支援チーム」認知症サポート医 佐藤恵先生、「地域の支え合いをすすめる区民参加の取り組み」特定非営利活動法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし理事長 廣瀬カズ子氏の 3 名の方にそれぞれの活動紹介していただきます。その後、④全体のディスカッションを行う予定です。

認知症、高齢者が増加する社会の関わりを、地域包括ケアシステムを含めて、ご参加の皆様にも一緒に考える良い機会と考えております。

この医学会では、1 日目の演題発表の発表者や聴講者との間に、職種間連携がより強いものとなることを期待しています。また、2 日目の区民公開講座を通して今回のテーマ認知症を始めとする超高齢社会が解決すべき課題を共通認識することで、地域の皆様が「ともに生きる社会をつくる」ことを考えていただける機会となれば幸甚であります。

最後にこの医学会に参加して、開かれた医師会を少しでも感じていただけることを祈念し、今後も皆様方からのご支援をお願いしてご挨拶とさせていただきます。

板橋区医師会医学会
会 長 水野 重樹

第3回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞について

板橋区医師会では、板橋区内の医療を担う若手医師の育成を目的に、「公益社団法人板橋区医師会若手医師奨励賞」を平成26年度に設立しました。この賞は、日常診療への示唆に富む臨床症例の経験、臨床・社会医学研究を通じて、実践的で創造的な活動を行っている、満40歳未満（平成28年6月30日現在）の板橋区内に常時勤務している若手医師やそのグループを対象にしております。

昨年度は、最優秀賞1名と優秀賞2名の先生方を選考させていただきました。

今年度も第21回板橋区医師会医学会において、書類選考により選ばれた奨励賞対象の先生方数名に口頭で発表を頂き、併せて授賞式を執り行わせて頂きます。是非、多くの会員の先生方、並びにご関係の方々には、ご参加頂きますようお願い申し上げます。

次年度以降も本奨励賞を継続していく予定です。医師会として、板橋区内の医療の発展に少しでも寄与できればと考えております。

第3回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞 授賞式 および 受賞者発表

日時：平成28年9月10日(土) 午後4時30分より
場所：板橋区立文化会館 小ホール

板橋区医師会医学会開催一覧（平成 8 年～平成 27 年）

回数	開催日	プログラム
第 1 回	1996 年（平成 8 年） 6/22・23	特 別 講 演 がん診療の現状 ―終末期医療について― シンポジウム 21 世紀に向けた地域医療について ―現状と将来について―
第 2 回	1997 年（平成 9 年） 7/26・27	特 別 講 演 高齢化社会における医療・保健・福祉の目標と評価 シンポジウム 板橋区における大災害時の医療対策 板橋区における在宅医療の構築
第 3 回	1998 年（平成 10 年） 8/29・30	シンポジウム 幼児学童期の精神面の諸問題と現場での対応 介護保険と医療・福祉の連携
第 4 回	1999 年（平成 11 年） 7/10・11	特 別 講 演 医療制度改革案について（特に参照価格制度について） シンポジウム 幼児学童期の感染症 板橋区における介護保険の準備（本音で語る介護保険）
第 5 回	2000 年（平成 12 年） 8/26・27	特 別 講 演 胃癌診断・治療の進歩 シンポジウム 小児救急 介護保険の現状と問題点
第 6 回	2001 年（平成 13 年） 7/14・15	特 別 講 演 医療と情報 シンポジウム 小児の生活習慣病 成人における生活習慣病を考える
第 7 回	2002 年（平成 14 年） 9/28・29	特 別 講 演 お医者さんのかかり方が変わる？ シンポジウム 小児のアレルギー ―アレルギーを知りましょう― 病院のかかり方 ―かかりつけ医をもちましょう―
第 8 回	2003 年（平成 15 年） 9/27・28	特 別 講 演 新型ウイルス性肺炎 SARS（重症急性呼吸器症候群） シンポジウム 板橋区健康づくり 21 計画 ―健康でいきいきとした暮らしをめざして― 身近な感染症の予防 ―あなたももう一度見直しませんか―
第 9 回	2004 年（平成 16 年） 9/25・26	特 別 講 演 地域で痴呆を支える：かかりつけ医の役割 シンポジウム こころの生涯健康を考える 『たばこ』健康づくり・まちづくりの視点から ―健康づくり応援 型のまちの実現をめざして―
第 10 回	2005 年（平成 17 年） 9/24・25	特 別 講 演 若年者の性行動に向き合って シンポジウム 健やかな老後をめざして ―介護予防と疾病予防― これからの板橋の認知症ケアを考える AED 講 習 会
第 11 回	2006 年（平成 18 年） 9/23・24	教 育 講 演 健診を評価する：その意義と方法 特 別 講 演 健康づくりの食べ方と玄米二ギニギダンベル体操 シンポジウム 板橋区の子育て支援 板橋区における脳卒中対策について AED 講 習 会
第 12 回	2007 年（平成 19 年） 9/8・9	教 育 講 演 特定健診・特定保健指導 ―地域における新たな生活習慣病予防シ ステムの構築― 特 別 講 演 メタボリックシンドロームを撲滅するために シンポジウム 気になる感染症 ―一体、いま何が問題なの!? ― いざ、病気になったら ―効率的な医療機関へのかかり方― AED 講 習 会
第 13 回	2008 年（平成 20 年） 9/6・7	教 育 講 演 医療関連死と監察医制度 要 望 演 題 健診・検診 終末期医療とケア 特 別 講 演 豊かな生、豊かな死のために シンポジウム 子どもの心のケアについて 実践！メタボリックシンドローム撲滅 AED 講 習 会

回数	開催日	プログラム
第 13 回	2008 年 (平成 20 年) 9/6・7	教 育 講 演 医療関連死と監察医制度 要 望 演 題 健診・検診 終末期医療とケア 特 別 講 演 豊かな生, 豊かな死のために シンポジウム 子どもの心のケアについて 実戦! メタボリックシンドローム撲滅 AED 講 習 会
第 14 回	2009 年 (平成 21 年) 9/26・27	教 育 講 演 医療と政治ー医政活動の原点を考える 指 定 演 題 糖尿病の介護と保健について 穏やかな最期を迎えるための医療と介護 特 別 講 演 糖尿病の早期治療の意義は? / 特定健診・一般健診を活かそう シンポジウム 考えよう日本のあしたー見直そう 子どもの生活習慣ー 早く見つけよう!ーがんなんて怖くないー AED 講 習 会
第 15 回	2010 年 (平成 22 年) 9/25・26	教 育 講 演 超高齢社会における医療介護の展望 指 定 演 題 退院前カンファレンスー入院から在宅まで, 切れ目のない連携ー 施設間連携 二人の主治医 (共同診療) 特 別 講 演 自分らしい死をどう迎えるか シンポジウム 次世代を担う子どもの健康を守るために 在宅でも安心! 医療と介護
第 16 回	2011 年 (平成 23 年) 9/24・25	教 育 講 演 いつか大事故が起こるー平穏無事は危険信号ー 要 望 演 題 小児在宅医療 退院を含めた在宅療養支援 特 集 災害医療支援 (東日本大震災を中心として) 別 講 演 ロコモと介護予防ー寝たきりを防止するためにー シンポジウム 認知症! 地域の力で支えよう 子育てアドバイス
第 17 回	2012 年 (平成 24 年) 9/29・30	教 育 講 演 東京都医療連携手帳の普及に向けてーがん診療に求められる医療 要 望 演 題 連携ー 胃ろう (経管栄養法) を考える 医療・介護現場における患者対応 特 別 講 演 いのちを商品にした国アメリカー日本の宝を守るにはー シンポジウム 「災害と医療」 午前の部「災害時の医療ネットワーク」 午後の部「東日本大震災に学ぶ災害時の医療」
第 18 回	2013 年 (平成 25 年) 12/7・8	教 育 講 演 最近の医療訴訟の傾向と対策ー診療所の法的リスクマネジメントー 要 望 演 題 地域における多職種連携 糖尿病に関わる複数科連携 『宇宙医学の社会への還元』 特 別 講 演 宇宙と健康ー安全な暮らしを支える宇宙開発ー トークセッション 有人宇宙飛行 黎明期に活動した二人の医師と宇宙飛行士が語る シンポジウム 宇宙医学と健康長寿
第 19 回	2014 年 (平成 26 年) 9/13・14	教 育 講 演 新型骨粗鬆症の恐怖ー生活習慣病は要注意ー 要 望 演 題 小児医療に関する最近の話題 特 別 講 演 人生の最期を穏やかに過ごすために シンポジウム 今日からできる認知症の予防
第 20 回	2015 年 (平成 27 年) 9/12・13	教 育 講 演 専門医としての総合診療医ー専門医制度とかかりつけ医の役割ー 要 望 演 題 難病・がん患者に対する新たな治療・療養の支援 特 別 講 演 和食と健康 シンポジウム 脳卒中の予防と治療

演 題 発 表 に つ い て

○口演発表の方へ

1. 発表時間は、口演発表 5 分、質疑討論 3 分の合計 8 分です
※発表時間厳守をお願いします
進行につきましては、座長より指示がございます
2. PC によるご発表が可能です
3. 発表されるセッションの約 30 分前には 2 階小ホール前の総合受付へお越しください
4. PC を使用される場合は試写をいたしますので、2 階小ホール前の総合受付後、「PC 受付」にお立ち寄りください
5. 枚数制限はございませんが、口演時間内で無理のないようご注意ください
6. 発表時間 10 分前までには、発表会場内最前列左手の席にてお待ちください
7. スクリーン 1 面映写となっております

○PC を使用される方へ

ご発表に際しては USB フラッシュメモリ、CD-R、または PC 本体（Windows、Macintosh）をお持ち込みください

◆USB メモリまたは CD-R 持ち込みの場合（Windows ご使用で、ご発表内容に動画がない方）

- ・本会が準備する環境は Windows、PowerPoint 2003/2007/2010/2013/2016 です
- ・フォントは、文字化けやズレを防ぐために OS 標準のものをご使用ください
推奨フォント 日本語：MS 明朝、MS ゴシック 英語：Century

◆PC 持ち込みの場合（Macintosh ご使用の方または、ご発表内容に動画がある方）

- ・本会が準備するプロジェクターケーブルの端子は「ミニ D-Sub15 ピン」です
これに対応する PC をご持参ください
一部小型 PC、Macintosh をご利用の方は変換コネクタをご用意ください
- ・スクリーンセーバー、省電力設定、個人認証などの機能はあらかじめ解除しておいてください
- ・発表中または準備中にバッテリー切れとなる恐れがありますので、電源コードは忘れずにご用意ください

※注意事項

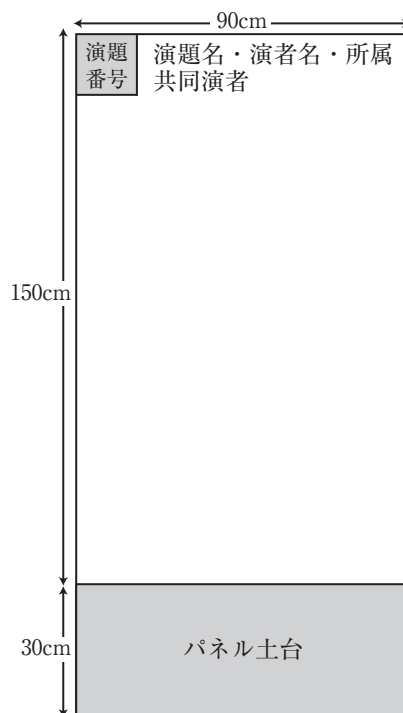
- 当日、会場ではデータ修正はできません
- 念のため、バックアップデータを必ずお持ちください
- 作成したデータは、作成にご使用した PC 以外での PC で必ず動作をご確認ください

○演題発表座長の方へ

担当セッション開始 30 分前までに 2 階小ホール前の総合受付にて受付をすませ、10 分前には発表会場内最前列右手の席にてお待ちください

○ポスター発表の方へ

1. ポスターは 2 階小ホール前のスペースに掲示いたします
2. 13:30 までに 2 階小ホール前の総合受付にて受付をすませ、ご自身で掲示をお願いします
演題番号および貼付に必要な画鋏は事務局で用意いたします
3. ポスターは右図の要領で作成してください
サイズ 横 90cm × 縦 150cm
(PowerPoint 60cm × 100cm で制作いただき、1.5 倍で出力)
演題番号・演題タイトル
ポスター内に記載をお願いします
4. ポスターは掲示のみで、発表はございません
5. ポスター掲示時間は 13:30 ~ 17:15 までとなっております
ご自身で持ち帰る場合は 17:15 ~ 17:30 の間に撤去をお願いいたします
時間が過ぎましたら事務局で撤去処分いたします



【取得可能な単位等】

医学会に参加することにより以下の単位等が取得できます。

9/10（土）

■教育講演(医療安全研修会) 17:20 ～ 18:20 「診療関連死と監察医制度」 東京都監察医務院院長 福永 龍繁	• 日本医師会生涯教育制度 カリキュラムコード 3 【医療倫理：研究倫理と生命倫理】 0.5 単位 7 【医療の質と安全】 0.5 単位 • 医療安全研修会修了証 聴講した方には研修会終了後に修了証を発行いたします
--	---

9/11（日） 区民公開講座

■シンポジウム 13:20 ～ 16:20 「認知症を地域が支える。 みんなで支える。」	• 日本医師会生涯教育制度 カリキュラムコード 2 【医療倫理：臨床倫理】 0.5 単位 7 【医療の質と安全】 0.5 単位 10 【チーム医療】 0.5 単位 13 【医療と介護および福祉の連携】 0.5 単位 29 【認知能の障害】 0.5 単位 80 【在宅医療】 0.5 単位 • 板橋区もの忘れ相談医更新研修 3単位
---	--

お問い合わせ先 公益社団法人 板橋区医師会 〒173-0012 板橋区大和町 1-7

TEL. 03-3962-1301 FAX. 03-3964-3652

E-mail igakukai@itabashi.tokyo.med.or.jp

■ ■ ■ プログラム ■ ■ ■

9月10日 第1会場 2F小ホール

要望演題 「癌の予防・早期発見・治療・リハビリ・終末期」

癌（悪性新生物）は働く世代の死因の四割を占め、小児でも疾患別にみればその首位になります。老齢期まで通してみると二人に一人は癌に罹患すると言われており、今後人口の高齢化が進めばさらに増加が見込まれています。また、癌診療自体も新たな知見の積み重ねにより質的に大きく変化しています。

癌の予防や早期発見、新たな治療やリハビリによる QOL の改善と延命、また終末期を含めた癌患者への支援や取り組みについての演題を、医師、看護師はじめ各職種から募集しました。

13:30—14:26

要望演題 1

座長：井上多鶴子（板橋区医師会在宅看護部長）

- 1-1 混乱を来しているがん患者や家族への相談対応の検討
牛山実保子（日本大学医学部附属板橋病院 看護部）
- 1-2 肺がん患者の自宅退院に向けての退院調整及び退院後訪問からの学び
五十嵐 恵（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 1-3 再発がんにより二度目の外科的治療を受けた高齢患者に対する看護
～ペブロウの人間関係論を用いた関わりを通して～
吉村秀平（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 1-4 ターミナル期における身体的・精神的苦痛に対する援助
阿部祐太（板橋区医師会病院 看護部 N5 病棟）
- 1-5 肺がんターミナル患者の心理的变化とチームでの関わり
水木宗一郎（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 1-6 がん性疼痛が患者に及ぼす影響
斉藤亜妃（板橋区医師会病院 看護部 N5 病棟）
- 1-7 モルヒネの使用が適応とされた患者の家族ケア
内海真由（板橋区医師会病院 看護部 S4 病棟）

14:26—15:22

要望演題 2

座長：石川 徹（板橋区医師会副会長）

- 1-8 慢性疾患フォロー中の患者の癌罹患状況～定期受診の陰に潜むリスク～
依藤 壽（よりふじ医院）
- 1-9 板橋区胃がんリスク検診の現状と課題～平成 26 年度との比較も含めて～
矢郷祐三（板橋区医師会 胃がんリスク検診班）
- 1-10 検診で発見された腫瘍径 1cm 以下の乳癌に対する超音波所見の検討
櫻井健一（日本大学医学部 外科学系乳腺内分泌外科学分野）
- 1-11 小児腫瘍性疾患に対する FDG-PET 検査の有用性と課題
植野 優（日本大学医学部 小児科学系小児科学分野）

○ 1-12 アクティビティを用いた若い家族のケア

小高ふみ（東京都保健医療公社豊島病院 緩和ケア内科）

○ 1-13 当センターにおけるがんのリハビリテーション

小山照幸（東京都健康長寿医療センター リハビリテーション科）

○ 1-14 在宅末期がん患者緩和ケア，看取りにおける医療連携について

林 滋（林クリニック）

15:22—16:18

要望演題 3

座長：佐藤 恵（板橋区在宅医会会長）

○ 1-15 がん治療を受けている患者さんの「食べる」を支える取り組み

～看護部との連携による外来化学療法室等の栄養食事指導体制の構築～

永井右来子（東京都保健医療公社豊島病院 栄養科）

○ 1-16 周術期消化器がん患者に対するリハビリテーションの実施状況

榎戸 淳（東京都保健医療公社豊島病院 リハビリテーション科）

○ 1-17 末期癌患者への医薬品の供給体制～無菌施設の共同利用について～

海老原 毅（板橋区薬剤師会）

○ 1-18 悪性リンパ腫に対して化学療法・幹細胞移植を施行した患者に，継続的なリハビリテーションを施行することで自宅退院が可能となった症例

橋本敏和（帝京大学医学部附属病院 リハビリテーション科）

○ 1-19 当院における胃 ESD 適応外病変の検討

原澤尚人（日本大学医学部 内科学系消化器肝臓内科学分野）

○ 1-20 皮下乳腺全摘同時エキスパンダー挿入による 1 次乳房再建について帝京大学病院での取り組み

上原恵理（帝京大学医学部 形成・口腔顎顔面外科学講座）

○ 1-21 転移性脊椎腫瘍に対する低侵襲手術と集学的治療の効果

榎本郁子（日本大学医学部 整形外科系整形外科分野）

16:30—17:15

第 3 回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞授賞式 および 受賞者発表

17:20—18:20

教育講演（医療安全研修会）

座長：鈴木育夫（板橋区医師会副会長）

「診療関連死と監察医制度」

福永龍繁（東京都監察医務院院長）

9月10日 第2会場 4F大会議室

13:30—14:10

一般演題：看護 1

座長：岡崎理恵（東京都保健医療公社豊島病院 看護部副看護部長）

- 2-1 糖尿病を基礎疾患に持つ患者の看護を通して学んだ事
～肺癌患者が、血糖コントロール不良に陥った事例を通して～
深堀恵子（板橋区医師会病院 看護部 N5 病棟）
- 2-2 腎臓内科外来スタッフとのカンファレンスを通して見えてきた継続看護と今後の課題
～高齢者の糖尿病性腎症の患者への継続看護を通して～
伊東由香（日本大学医学部附属板橋病院 看護部 4C 病棟）
- 2-3 前立腺全摘術後に起こる漏尿の現状について
～骨盤底筋体操指導の見直しと今後の課題～
相田美代子（日本大学医学部附属板橋病院 看護部 5A 病棟）
- 2-4 大腿骨転子部骨折患者の経時的心理変化と看護プロセス
戎野 亮（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 2-5 化学療法を受ける老年期患者への看護
安彦 妙（板橋区医師会病院 看護部 S5 病棟）

14:10—14:58

一般演題：看護 2

座長：山富礼子（板橋区医師会病院 看護部 S3 病棟看護部長）

- 2-6 PNS 定着に向けた取り組み～ PNS 監査の結果から得た定着させるための課題～
大山文恵（東京都保健医療公社豊島病院 看護部）
- 2-7 当院における感染リンクナースの育成研修
久原嘉子（東京都保健医療公社豊島病院 看護部）
- 2-8 平成 27 年度の褥瘡対策チーム活動を振り返って
中澤真沙美（安田病院 看護科）
- 2-9 対応に苦慮した外国籍母子の 1 例
田仲佳純（板橋区医師会病院 看護部 N4 病棟）
- 2-10 退院に向けての経過表の見直し～情報共有し早期退院を目指せ！！～
宇田川玲郁（板橋区医師会病院 看護部 S3 病棟）
- 2-11 医療処置が必要な高齢患者の介護を担う患者家族への退院支援
酒井真野（東京都健康長寿医療センター 看護部）

14:58—15:54

一般演題：看護 3

座長：柴田 薫（東京都健康長寿医療センター 看護部副看護部長）

○ 2-12 精神科リエゾンチームの活動報告

村田涼子（東京都保健医療公社豊島病院 看護部）

○ 2-13 知的障害を持つ糖尿病腎症患者の自立に向けた外来でのチーム医療の取り組み

中村千恵美（日本大学医学部附属板橋病院 看護部内科外来）

○ 2-14 術後せん妄を引き起こした壮年期患者の看護～予防の必要性～

四ツ谷かすみ（板橋区医師会病院 看護部 S4 病棟）

○ 2-15 長期入院によるせん妄を発症した患者への看護

吉原 梓（板橋区医師会病院 看護部 S5 病棟）

○ 2-16 患者への依存度の高い知的障害をもつ家族への看護援助

大野鮎美（東京都健康長寿医療センター 看護部）

○ 2-17 夜間不穏患者への入院環境を調整する援助

松下和美（板橋区医師会病院 看護部 S3 病棟）

○ 2-18 地域診療所との合同カンファランスを繰返し、看取りに至った末期心不全症例の経験

山田順子（日本大学医学部附属板橋病院 看護部循環器病棟）

18:25—20:00

懇親会

9月10日 第3会場 3F第3会議室

13:30—14:18

一般演題：循環器科

座長：土屋洋人（志村坂クリニック院長）

- 3-1 重症大動脈弁狭窄症と慢性腎不全を合併した93歳女性の慢性心不全急性増悪に対して tolvaptan 継続投与が有効であった1例
川村隆貴（東京都保健医療公社豊島病院 循環器内科）
- 3-2 大動脈弁狭窄症に対する新しいカテーテル治療，TAVI の成績
渡邊雄介（帝京大学医学部 内科学講座循環器内科）
- 3-3 抗凝固療法中止時に発症した心房細動合併上肢急性動脈閉塞症緊急手術の1例
～抗凝固療法休業・再開時期は～
鈴木沙季（日本大学医学部 外科学系心臓血管外科分野）
- 3-4 抗菌薬によるアナフィラキシーショックに合併した冠攣縮性狭心症（Kounis 症候群）の1例
三須恵太（帝京大学医学部附属病院 救命救急センター）
- 3-5 外傷性大動脈損傷に対し TEVAR を施行した2例
今水流智浩（帝京大学医学部 心臓血管外科学講座）
- 3-6 胸部大動脈瘤破裂に対する緊急胸部ステントグラフト内挿術後，大動脈瘤壁外仮性瘤に対して direct sac puncture による coil embolization が有効であった1例
河田光弘（東京都健康長寿医療センター 心臓外科）

14:18—15:14

一般演題：外科・内科

座長：安田武史（安田病院院長）

- 3-7 食道原発悪性黒色腫の1例
梅林佑弥（東京都保健医療公社豊島病院 外科）
- 3-8 腹腔鏡下胃切除術におけるリンパ節郭清～定型化を目指して～
梶田浩文（東京都保健医療公社豊島病院 外科）
- 3-9 MPO-ANCA，抗 GBM 抗体がともに陽性の顕微鏡的多発血管炎に対し，ステロイド内服のみで治療効果が得られた1例
山中法子（東京都保健医療公社豊島病院 腎臓内科）
- 3-10 エリブリンによる薬剤性肺障害と考えられた1例
野本正幸（日本大学医学部 内科学系呼吸器内科学分野）
- 3-11 大動脈弁狭窄症を合併した高齢者肺癌に対し，経カテーテル的大動脈弁留置術および完全鏡視下手術にて根治術が可能であった1例
堺 崇（帝京大学医学部 外科学講座）

○ 3-12 レジリエンス医療安全：推進とトレーニングのプログラムに向けて

鈴木和男（帝京大学医学部附属病院 安全管理部）

**○ 3-13 レジリエンス医療安全：チームコミュニケーションが心肺蘇生に与える効果
～院内急変シミュレーション分析から～**

安心院康彦（帝京大学医学部附属病院 安全管理部）

15:14—16:10

一般演題：総合

座長：浅倉公治（板橋区医師会理事）

○ 3-14 板橋区脳卒中懇話会の活動について

弓倉 整（板橋区医師会）

○ 3-15 脳梗塞と糖尿病治療中に発症したクローンカイト・カナダ症候群の1例

安田武史（安田病院 消化器科）

○ 3-16 下腿軟部腫瘍にて発症した筋サルコイドーシスの1例

江崎 崇（帝京大学医学部 内科学講座呼吸器・アレルギー学）

○ 3-17 脳神経外科領域における内視鏡手術の実際

大山健一（帝京大学医学部 脳神経外科学講座／下垂体・内視鏡手術センター）

○ 3-18 下肢麻痺より診断に至った小細胞肺癌の1例

夏目まいか（帝京大学医学部 内科学講座腫瘍内科）

○ 3-19 腎部分切除後に下大静脈内腫瘍塞栓を形成した乳頭状腎細胞癌2型の1例

吉田利之（日本大学医学部附属板橋病院 泌尿器科）

○ 3-20 メタボリック症候群改善のためのヘルスデバイスの開発と機能性食材弁当の検証

井手久満（帝京大学医学部 泌尿器科学講座）

9月10日 第4会場 3F第4会議室

13:30—14:18

一般演題：整形外科・皮膚科

座長：永井 悠（板橋区医師会病院整形外科部長）

- 4-1 骨粗鬆症に対するテリパラチドまたはデノスマブ投与初期効果の
MD (microdensitometry) による検討
長瀬満夫（長瀬クリニック）
- 4-2 橈骨遠位端骨折の保存治療中に長母指屈筋腱損傷を来した1症例
新井規暁（帝京大学医学部 整形外科学講座）
- 4-3 区西北部地域リハビリテーション支援センターの板橋区での取り組み
～「板橋区高齢者等地域リハビリテーション支援事業」への支援～
中島英樹（東京都保健医療公社豊島病院 リハビリテーション科）
- 4-4 E-SAS を用いた通院リハビリテーションの評価
渡邊訓禎（中小路整形リハビリクリニック）
- 4-5 日大板橋病院における蕁麻疹診療
葉山惟大（日本大学医学部 皮膚科学系皮膚科学分野）
- 4-6 かゆみのない蕁麻疹 クリオピリン関連周期性発熱症候群の診断と治療
葉山惟大（日本大学医学部 皮膚科学系皮膚科学分野）

14:18—14:58

一般演題：産婦人科・小児科

座長：大西美也子（板橋区医師会病院産婦人科部長）

- 4-7 開院から現在までの当院における不妊治療成績
藤野 剛（ときわ台レディースクリニック）
- 4-8 周産期に育児リスクがみられた症例について
今泉隆行（板橋区医師会病院 小児科）
- 4-9 板橋区における5歳児発達診療
宮川美知子（石川医院）
- 4-10 小児科における受診児の付添者と少子化対策
荒木静枝（石川医院）
- 4-11 救命救急センターに入院した重症小児虐待症例の特徴
中村和裕（日本大学医学部 救急医学系救急集中治療医学分野）

14:58—16:26

一般演題：歯科・その他

座長：大野安実（板橋区医師会理事）

- 4-12 口腔ケアハンドブック製作のためのアンケート調査結果
小林 顕（東京都板橋区歯科医師会）
- 4-13 口蓋に再発したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例
日置沙希（東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科）
- 4-14 敗血症に至った急性化膿性顎関節炎の 1 例
森美由紀（東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科）
- 4-15 嚥下食の改善・工夫～食べやすく・おいしい食事の提供を目指して～
浅川沙織（東京都保健医療公社豊島病院 栄養科）
- 4-16 歩行指導による外反母趾の疼痛改善に関する考察
古屋達司（板橋区柔道整復師会）
- 4-17 徒手整復技術～口腔外法による顎関節前方脱臼の整復法～
山本 清（板橋区柔道整復師会）
- 4-18 放射線科一般撮影における待ち時間短縮の取り組み
古川祐子（東京都保健医療公社豊島病院 放射線科）
- 4-19 救急現場で求められる MSW の役割
～「救急認定ソーシャルワーカー」認定制度創設に向けて～
佐藤圭介（帝京大学医学部附属病院 医療連携・相談部医療福祉相談室）
- 4-20 介護と相続～嫁の介護は報われるか～
村尾和俊（介護老人保健施設赤塚園 居宅介護支援事業所）
- 4-21 災害に対する一般用医薬品の備蓄の啓発活動および市民の意識調査について
保坂洋二（板橋区薬剤師会）
- 4-22 「事務」だからできた医療連携室の取り組みについて
～医療連携カウンター開設の経緯と現状～
望月雅代（帝京大学医学部附属病院 医療連携・相談部医療連携室）

ポスターセッション 2F小ホールロビー

13:30—17:15

P-1 平成 27 年度板橋区学童心臓検診についての報告

泉 裕之（板橋区医師会 循環器系検診班）

P-2 呼吸器疾患スクリーニング検診班の活動について

大森千春（板橋区医師会 呼吸器疾患スクリーニング検診班）

P-3 地域包括ケアに対する区民意識調査

～平成 27 年度板橋区民まつリアンケート集計～

加藤喜之（板橋区医師会）

P-4 もの忘れ相談医の自院における活動状況

吉野正俊（板橋区医師会）

P-5 板橋区肝炎ウイルス検診結果報告（平成 27 年度）

石川 徹（板橋区医師会 肝炎検診班／小豆沢病院 内科）

P-6 平成 27 年度板橋区学校検尿結果について

鈴木育夫（板橋区医師会 尿検診班）

P-7 板橋区の喉頭がん検診について

河原秀明（板橋区耳鼻咽喉科医会）

9月11日(日) 区民公開講座 共催：板橋区 【会場：大ホール】

■映画上映 「ペコロスの母に会いに行く」

10:00 - 11:55

実話をもとに描かれた介護と認知症。

だいじょうぶ、なにかと不安もおありでしょうが、笑いと愛をおとどけます。

(あらすじ)長崎で生まれ育った団塊世代のサラリーマン、ゆういち(岩松了)。ちいさな玉ねぎ「ペコロス」のようなハゲ頭を光らせながら、漫画を描いたり、音楽活動をしながら、父の死を契機に認知症を発症した母みつえ(赤木春恵)の面倒を見ていた。迷子になったり、汚れたままの下着をタンスにしまったりするようになった彼女を、ゆういちが断腸の思いで介護施設に預けることに……。 / ほか 竹中直人、原田知世

■挨拶

来賓、主催者

13:00 - 16:20

■シンポジウム 「認知症を地域が支える。みんなで支える。」

座長 板橋区医師会長

水野 重樹

板橋区医師会副会長

石川 徹

板橋区医師会理事

吉野 正俊

基調講演

「認知症とともに生きる社会に向けて」

東京都健康長寿医療センター研究所研究部長

栗田 圭一

対談講演

「認知症とともに、よりよく生きる」

認知症とともに歩む本人の会代表

佐藤 雅彦

NPO 法人認知症当事者の会

水谷 佳子

活動紹介

「地域包括支援センター：住み慣れた地域での生活を支援」

高島平地域包括支援センター所長

田畑 文子

「かかりつけ医としての支援：もの忘れ相談医、認知症初期集中支援チーム」

認知症サポート医

佐藤 恵

「地域の支え合いをすすめる区民参加の取り組み」

特定非営利活動法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし理事長

廣瀬カズ子

ディスカッション

※区民公開講座は申込制となっています(定員1,200名)。

参加ご希望の方は、往復ハガキに

①区民公開講座申込

②郵便番号・住所

③氏名(ふりがな)

④年齢

⑤電話番号

⑥職業

を明記のうえ、板橋区医師会医学会事務局宛(〒173-0012 板橋区大和町1-7)へお申し込みください。定員になり次第締切となります。